



東天王岡崎神社

子授け・安産・縁結びの神



東天王岡崎神社

うさぎのをのみこと　くしいなだひめのみこと

御祭神　素盞鳴命・奇稻田姫命・八柱御子神

桓武天皇延暦十三年(七九四)平安京遷都の際に、王城守護の為平安京の四方に建立された社の一つで、都の東(卯の方位)に鎮座する事から東天王と称した。

清和天皇が貞観十一年(八六九)に造宮、後醍醐天皇も造宮、室町時代には足利義政が修造、幕府との関係も深く、平家物語は官幣四十一社に加えている。

治承二年(一一七八)に、中宮の御産の奉幣を賜った事から、安産の神として祈願する信仰がある。

ご祭神速素盞鳴尊が出雲国の簸の川で、八俣大蛇から奇稻田姫命を救う為、十拳剣を振るい見事退治。姫と固く結ばれ夫婦神とされた有名な故事により、縁結びの神としてとても信仰が厚い。

また往時背後の紫雲山を始め境内一帯がうさぎの生息地であった事から、うさぎは神様の神使いと伝えられ、本殿や境内の灯笼・狛兔・斎館等にうさぎの彫刻像があり、特に手水屋形にある子授けうさぎ像は参拝者の人気を集め、祭神が八柱もの御子神をもうけられ、うさぎが多産である事から子授けの神として祈願信仰されている。

岡崎神社々務所